



古本

古本



遠
1.644
6 止



特 13
1644
6

田和



熱湯校身六

竹秋よましん云

こら〜と袖つ〜さら〜
き〜の〜を〜
〜人〜
〜と〜
〜小〜
〜命〜
〜か〜
〜と〜

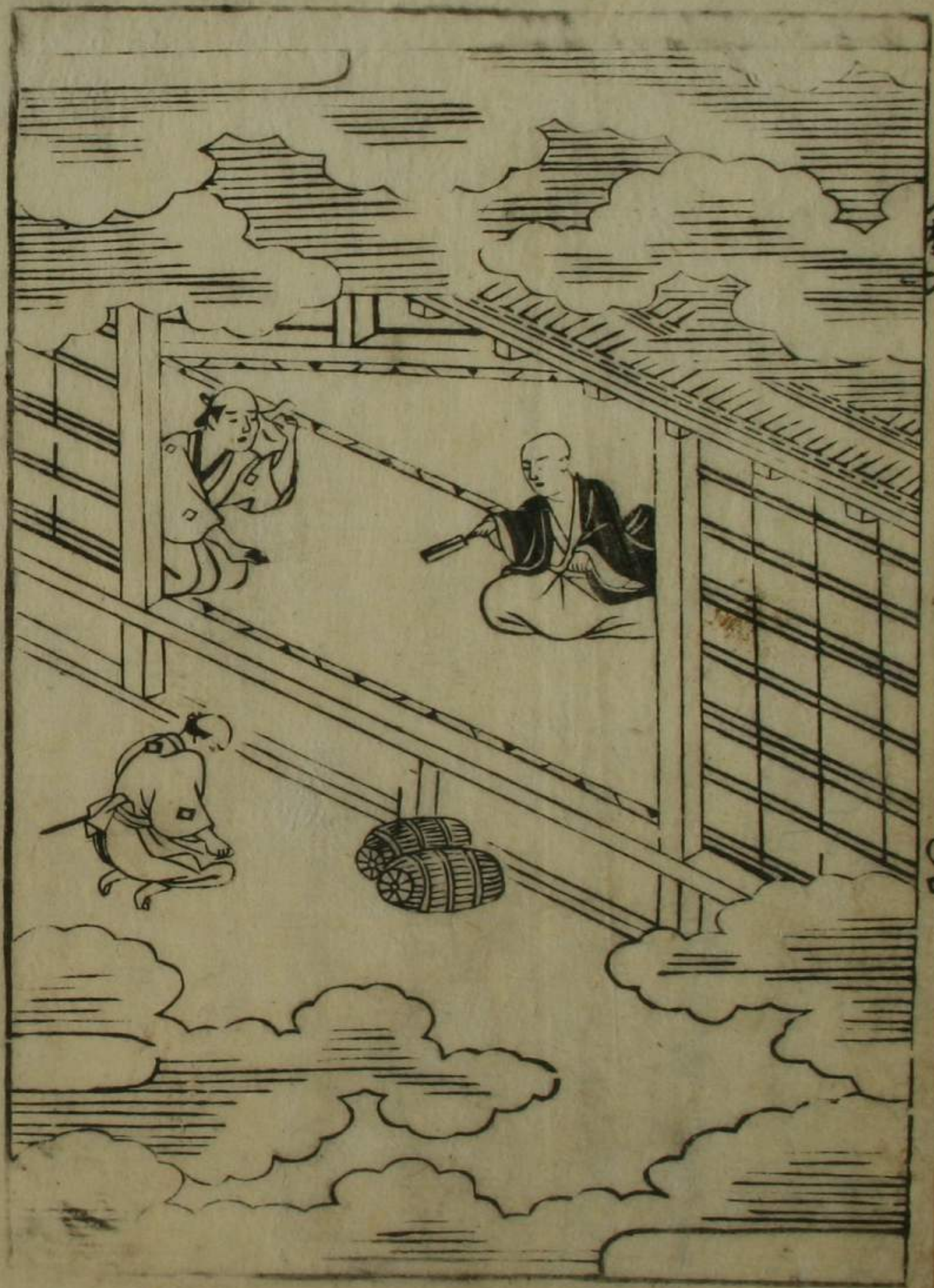


木もひらきまじりてむしむし種もつまらけあつたさか
 くは仲のあつたさかむしむし種もつまらけあつたさか
 小度表へ腰りていふまじりてむしむし種もつまらけあつたさか
 はわて世のあつたさかむしむし種もつまらけあつたさか
 大盤表へ腰りていふまじりてむしむし種もつまらけあつたさか
 へより種はみよんれむしむし種もつまらけあつたさか
 病くふあつたさかむしむし種もつまらけあつたさか
 まかけおせんともむしむし種もつまらけあつたさか
 まれ下へむしむし種もつまらけあつたさか
 とく通くむしむし種もつまらけあつたさか

いかみどいとつむしむし種もつまらけあつたさか
 醫者へ信作らむしむし種もつまらけあつたさか
 何ともむしむし種もつまらけあつたさか
 つれ桂梅の赤物あつたさかむしむし種もつまらけあつたさか
 ちやうち世をれむしむし種もつまらけあつたさか
 んどいふむしむし種もつまらけあつたさか
 め負若ふむしむし種もつまらけあつたさか
 春れちのむしむし種もつまらけあつたさか
 茶師のむしむし種もつまらけあつたさか
 と出すむしむし種もつまらけあつたさか

こしゆ花も井ぶの鞠らりし徳らうとけり
 きを故人もわいふ流とらりていふ
 とも可なりとらりし徳らうとけり
 こしゆ花も井ぶの鞠らりし徳らうとけり
 きを故人もわいふ流とらりていふ
 とも可なりとらりし徳らうとけり
 こしゆ花も井ぶの鞠らりし徳らうとけり
 きを故人もわいふ流とらりていふ
 とも可なりとらりし徳らうとけり
 こしゆ花も井ぶの鞠らりし徳らうとけり
 きを故人もわいふ流とらりていふ
 とも可なりとらりし徳らうとけり

こしゆ花も井ぶの鞠らりし徳らうとけり
 きを故人もわいふ流とらりていふ
 とも可なりとらりし徳らうとけり
 こしゆ花も井ぶの鞠らりし徳らうとけり
 きを故人もわいふ流とらりていふ
 とも可なりとらりし徳らうとけり
 こしゆ花も井ぶの鞠らりし徳らうとけり
 きを故人もわいふ流とらりていふ
 とも可なりとらりし徳らうとけり
 こしゆ花も井ぶの鞠らりし徳らうとけり
 きを故人もわいふ流とらりていふ
 とも可なりとらりし徳らうとけり



竹の枝は白くよかとぬて志づゝあんどれおひとほ
 竹の初まはあつた高きよなりて夜富栄一
 生れ不乾成結ふらりと夏とんとてあゝ目とこ
 まし嬉しくはまゝ丸まゝさうふりてねあを

竹の枝は白くよかとぬて志づゝあんどれおひとほ
 竹の初まはあつた高きよなりて夜富栄一
 生れ不乾成結ふらりと夏とんとてあゝ目とこ
 まし嬉しくはまゝ丸まゝさうふりてねあを

竹の枝は白くよかとぬて志づゝあんどれおひとほ

竹の枝は白くよかとぬて志づゝあんどれおひとほ
 竹の初まはあつた高きよなりて夜富栄一
 生れ不乾成結ふらりと夏とんとてあゝ目とこ
 まし嬉しくはまゝ丸まゝさうふりてねあを

花出眼く女とよめく安ゆとらりおつてそれハ極は
 盗人の入らるふいと花よらうとてふとてさう
 とくらんぬさふとてさうとてさうとてさうとてさう
 とも阿せりやう折をハ伊東三代ハ後亂我の
 十郎祐成よしおとてと和ぬやふ醫考の竹並金
 銀柔様秋凡ハ塵安ふとてさうとてさうとてさう
 介小花らう一とてさうとてさうとてさうとてさう
 たりとてさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 福れおふとてさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 とてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさう

してまゝとてさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 耳でとてさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 思ひ入してさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 舟所とてさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 わりさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 さいまはとてさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 やるとてさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 守ていや目出なまさとてさうとてさうとてさうとてさう
 の続とてさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 かりいなるとてさうとてさうとてさうとてさうとてさう

花六

花六

さして又いひたりけり何處帝皇御り依り
竹女と内裏へおそれんさあ只今勅使の酒を
飲ふそとて門あしりさつさつ竹女を
くらしていさねまの隔へけ也十徳をなげ
けあは出て畏りまづとさふけおしりしに
勅使の内へ入すい海女はまふ禰とあせそ
くよまひしとてさあ門は脳はうをへまひ
竹女とは眼よまづらうとてさあ内位はま
老上べしとていけおれとて白紙百枚付
十重は眼は為るま一不よ終りまあり

さして又いひたりけり何處帝皇御り依り
竹女と内裏へおそれんさあ只今勅使の酒を
飲ふそとて門あしりさつさつ竹女を
くらしていさねまの隔へけ也十徳をなげ
けあは出て畏りまづとさふけおしりしに
勅使の内へ入すい海女はまふ禰とあせそ
くよまひしとてさあ門は脳はうをへまひ
竹女とは眼よまづらうとてさあ内位はま
老上べしとていけおれとて白紙百枚付
十重は眼は為るま一不よ終りまあり

かひまがうそあといふと申業と細へは此内へん
より

王と白れ候舞れを色へんけきと

りあまの福をうらむてをあう

といひしりしおむ山後夜修りまうしといふ乃

はすさんやうくおつしすしれうか福をく賤

しめあまよてあまて今まで八月日さうれま

あしむやさとまのりしりしをえれは竹女

転迎孔子をもてよああわの転四

何よあしめれはま世とやさん

とつうまうりしりまれば勝たぬ客一回は換
とらう換ひてさうしりしりしりしりしりしり
大勝んぞ一ハ世は人醫よしおとすすしりあ
あまうりよ迎あまの信らうしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
さうしりしりしりしりしりしりしりしりしり
さうしりしりしりしりしりしりしりしりしり
後りいやははははははははははははははははは
心いかり又ゆいさうよは産くも業研研研研
書しりしりしりしりしりしりしりしりしりしり



あやまりあつしゆんもつづつ細合丹をびつ
 さなりまさうりも付しつとす
 と終りしりえれは又うへより終る
 業ね業終るれむく業終るく業んま
 はるなるもそやまよれは業ハ勿折る
 とありそれバ竹舟ちりしおくや
 けえの我家の祖者徳之屋よりお借り
 業貴子百人をよして慶治は必死をまじ
 あれはま例として今日お借りし
 入をこいし

つらまうしむ魚もふらひの左さまの...
ららちうめん耳梨地よ去る川出...
あうも西持...
めらうんきと...
ト地...
しけらうと...
産を...
初...
乙...
竹...

竹...
乙...
初...
乙...
竹...

そのうさずや...
あけ...

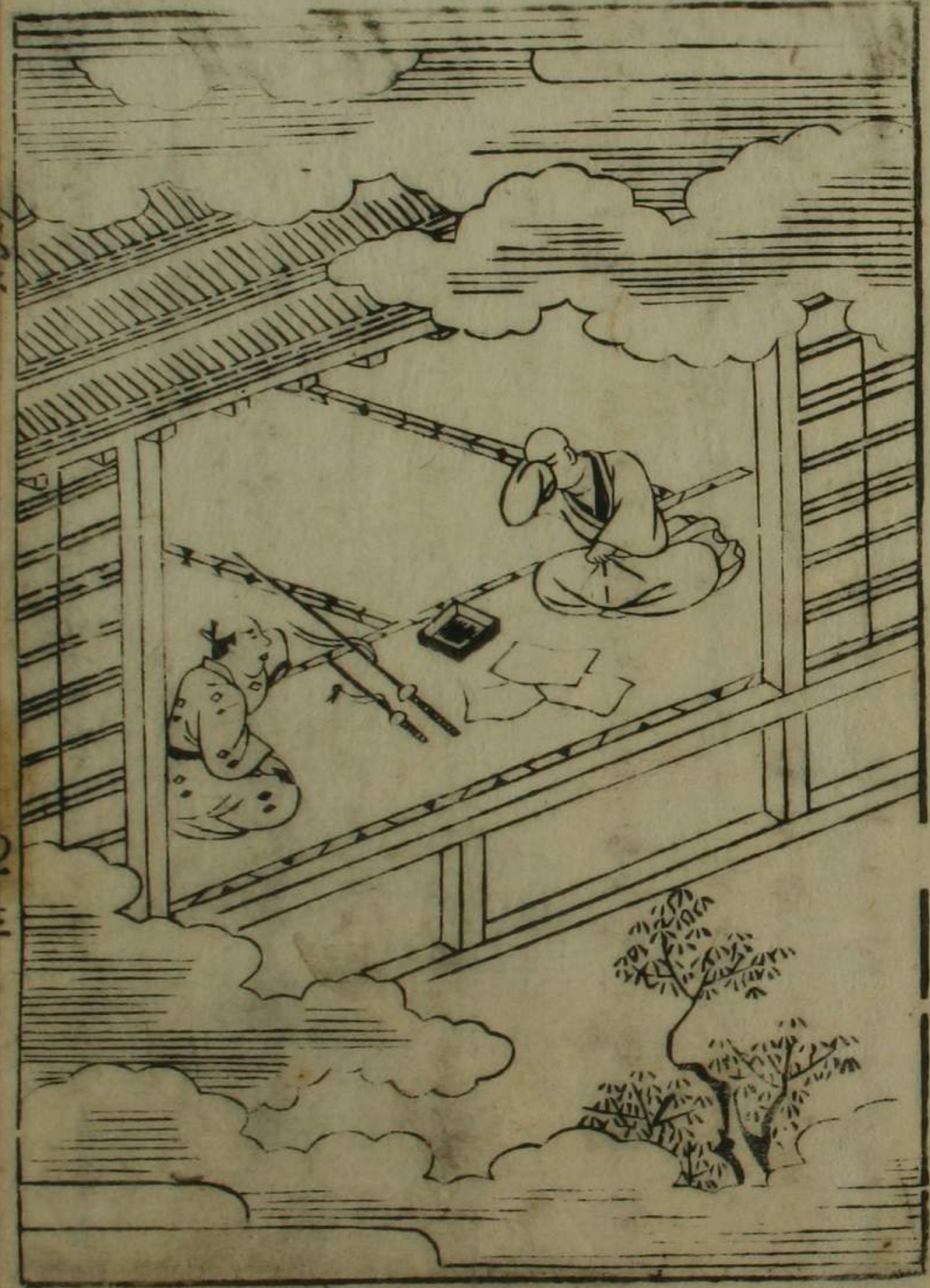
い戸...
次...
まり...
天下...
まぬ...
の...
されて...
より...

...

...

アコシレガ... 中より... 鳴呼信

郭郎よ... 一炊此... 一執此... 一竹糊...



青洲つむにれりりまきけかたもろも
 方へおきす
 一 卦八寸冬切丸の刀竹糸丸節備一腰
 一 けされまきすに丸四ちね
 一 ちぶ地の豆でまきとくまこの方り備り
 とれりり
 袴中は一腰ハ巾久妻力とまきこぞり
 トウシつねし女よまきけさせし松蔭の刀
 一代我とみろとちろまきとまきとまき
 りあへるまきとまきとまきとまきとまき

これどもうとましくと辨よもんをすくわく
して我家とちり居らるる者一子として
とてと連れ候るるに或列は所一玉とらぬ
け腹れらく多うぬくの来と一節二夜竹女と
の性名を耀うあめまうきで一妻と一女と
まはひころを我もあれ陰より胸のいそいで
やうらうやうれゆらけ海おくよのいそやう
おとをれおしんまくやめよう一まくりをさし
あとも今あうらるる理よつりうさくさ
とまりふらうられ中一とあさましくまれの

竹女西にけくつりうよお屠とむまの
ひとまりて名さうりしがもや其おまをわさ
よと世ゆらやま多いおれにたすけは
つさくしあて思日らうらうらうら
うらうらむが不定れ想ひたを不儀初よつら
けてつれよはれおりくみえまれば暇の助候とい
る事よ看病しよれ、甲世及く竹女も今
うらうらとあてまうられ輝世とまうらうら
やぶ醫えれ竹の二字れをたすけらうら
やうらうら世ゆれうきしてさうら

とけんららどとまふらして何んかふとて扱竹
毎何んや思ひせん指仏堂小あり一尺の秘迦の
像と扱もふとて秘堂ありやまこととれい
あつて何んや思ひせん指仏堂小あり一尺の秘迦の
氣よとまふらどとまふらどとまふらどとま
くもてらよととらゆとせいあくかろとわと
まれば扱仏像と扱らららまふら小あり
り善哉や我善不善是よとらんぬ佛拈金
して辨とれば氣を治して何んかふとて扱竹
まれば扱仏像と扱らららまふら小あり

まのりて扱又迦一生死極當前よ扱已身
か思なるらとと求ど身の上か何んかふ
あんまらとと皆を宣なるら南を教主釈迦
佛もふとて秘堂ありとら会佛して座禪止靜
の眼ととら息ととらとらとらとらとらとら
水と権ととらとらとらとらとらとらとらとら
かけぬととらとらとらとらとらとらとらとら
いほすととらとらとらとらとらとらとらとら
いりららららららららららららららららら
くつとらとらとらとらとらとらとらとらとら



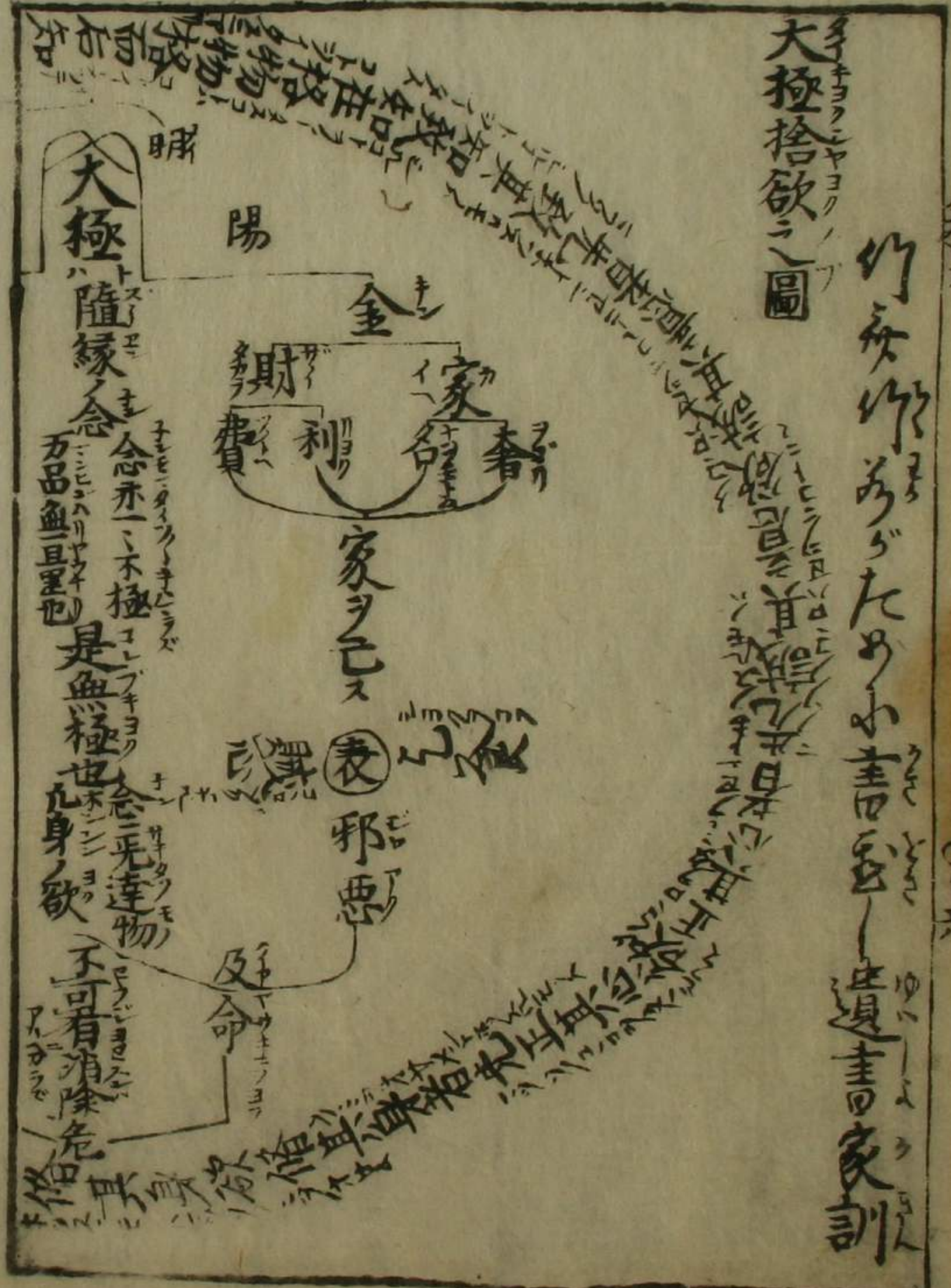
燈とる！新扉寂竹亦庵出禪定門と名
 りと祈りて一初とる

不見朝垂露
 人身亦如此
 切莫因循過
 菩提即煩惱

日燥自消除
 庵淨是寄居
 且令三毒祛
 盡令无有餘

竹矢作あがたり小書に遺書家訓

大極捨欲之圖



正心正而名身脩身脩而佑家齊月家齊月而佑國治國治而佑天下平

云下平巾一匹安んずるに安んじつるおふおひ
天の交とよとれ危ふまは方はくはゆうせうりわ
れが理お女うひ大者目くお増進して名をとまら
くは林野よ及びかきまきまらんとて存がまら
るるよとせいとぬらふとていふとていふとめま
るる金根と考ふを欲お似て大欲の根元なり利
欲け貫とまらうとてして羨望と求めあなうめ
珠露とよむと人我分際と辨て金根珠とら
いめ度席とくまりとらふ及んでいららうのこと
しめきのと貴とよ味お近づんよとてらうと

あうそら流らるる腰れまわりくお若はくく
はしとるを止とてらうとてく人れおらとむ
さがり白己が貯財いららうとてかよと
らとと人欲不たれ鏡衣我早おつとれ
月くおやまきらて所よ家れ物名紙所と
か一れあやまらうとて枝葉れとてらうとまね
くくくとてとて我のさうとてあくとて
それひとらとつとて心とらうとて悪ハせめ
物とわやまきとてかよ小園盡とてくくく
一帯小居間おあらうとて教年とて小人とて

かきとつりてカと害と世我家を成と云れ
思下よわらしととも必才のりとしゆら
らも才女は用おんとりくをうとまを小説
ぬらんとしてはいまうとつてくを度と信ん
小橋渡ぬ正の秋のつとを我く小唄せはうい
ちもととりて人の悲れあつくとくをさるる
いとくも是終となりゆとへ時と地勢ひありこそ
世才法とあつくと今日ゆへにやうあ福
け家といとも不れれいとけとをく
小橋氷れと小文後と立て業氣とさるる

小橋より嗚呼樂よ何なく飽らうよ日なり
とれまとふり概いと絶りて生れ自決の敢ま
強りくまべんや又うらうらうとつて
眞眼とくまをくると者ふくしきと好ん
て人よりわいふとくれうやうふや
おどし我慢は氣中先へつべうす事さふ
及つ時まをけりといは痺痺れ若れあむじ
くわして人れ進氣がまをまを
まつしさついで正氣と集ふへり
知れ初小をて息絶古とまをさる別ら

久六
三十一

とてよて延川小及び人の筒靴とらうへん
こころ重ううごれに威あつとすくひて紙
こち子とらうとてこれと威とけらうと
こらとと中めけりて力退くもれ
乞と奉りし持持とすは炊いと清除とをせり
腰れ骨こつてくあふしてかまうと頭あ
く小礼とあり平懐不礼乃北後小及び人
くと月れ下小らんていひこつ小人ととらう
ととれとくかちと背ひて順とす猫う
るびおこつて食食あつとれに尻也してけり

とてよて延川小及び人の筒靴とらうへん
こころ重ううごれに威あつとすくひて紙
こち子とらうとてこれと威とけらうと
こらとと中めけりて力退くもれ
乞と奉りし持持とすは炊いと清除とをせり
腰れ骨こつてくあふしてかまうと頭あ
く小礼とあり平懐不礼乃北後小及び人
くと月れ下小らんていひこつ小人ととらう
ととれとくかちと背ひて順とす猫う
るびおこつて食食あつとれに尻也してけり



黙して居るさす元氣我氣仙の生ぬとも
ち思ふ一さりこそ居居此級と乳一老が美
辨れらる升と里の気氣海世うくまあり
くわくハ辨と臨うれ氣う大わくを方法能ん
付て用提さるさ老と

年号月日

竹島丸

海下此野史醫竹島書

有樂且須樂
離云一百年

時哉不可失
豈滿三万日

寄世是須與
孝經末後章

論錢莫啾唧
委曲陳青耳

享保天庚年土月吉日

浪花書林 布衣書

